

## 菅 原 文 哉 (すがわら ぶんや)

角 田 孝 志

(株オリエンタルコンサルタント顧問)

明治39年（1906）宮城県栗原郡金田村に生る。大正12年（1923）上京、東京府建設事務所を経て、東京府都市計画課及び整地課に勤務。その傍ら攻玉社にて土木を学び、昭和7年（1932）3月攻玉社高等工学校土木工学科卒業、整地課では東京府下各地土木区画整理基本調査、組合設立に参画して事業実施の指導に当たった。主たる組合設立は駒沢、上馬、下馬、練馬等広範囲に及んでいる。

昭和10年（1935）満州国政府転出、民政部都邑課に勤務、昭和14年高等技術官試験に合格、交通部技佐となる。満鉄及び関東軍参謀部嘱託として、国務院総合立地計画室兼務、全満州の新興都市の都邑の調査、計画、事業実施等の中心的存在として活躍した。

昭和21年（1946）10月、郷里の宮城県に帰国、その当時の神奈川県計画課長佐藤昌氏の御好意で神奈川県技師（二級官）に採用が決定したがこれを辞退、郷里の宮城県にて開拓協同組合長、同時に仙台市にて木材業を自営した。

昭和26年（1951）戦後の混乱も一応終束、新しい日本の都市建設が緒につくや、乞われて主要都市の総合都市計画に参画、近代都市の基盤を確立、実施に移した。

即ち昭和26年6月、新潟県新津市技師として新津総合

都市計画を樹立した。次いで昭和27年10月～30年3月、秋田市計画課長として、広範囲な基礎調査に基づき、秋田市総合都市計画を策定した。この計画は全日本建設技術協会賞を受賞、日本の都市計画のマスター・プランの代表として、国際住宅都市計画会議にも提出された。昭和30～39年、藤沢市建設

部長として、藤沢市総合都市計画を策定し、大工場の誘致にも成功した。昭和39～42年、仙台市建設局長として、都市計画の基本調査を実施、仙台市総合都市計画を策定し実施に移した。

昭和42年から10年間は、民間企業の経営陣に参画、京急興業（現）では千葉県市原市の地区画整理事業を担当、特に住環境に重点を置いた。日本新都市開発（現）では埼玉県所沢市ニュータウン宅地造成事業を指導完成、建設大臣より民間団体第一号の表彰を受けられた。

昭和50年秋、世界都市計画学会（オランダ）に出席、帰国後体調を害し、神奈川県相模原市北里大学病院に入院、昭和52年（1977）4月6日、死去された。享年71才。

